



若木

2017年5月1日 No. 2

町田市立町田第五小学校
校長 五十嵐 俊子



温かな雰囲気の中で前向きな気持ちでがんばれる「まちご」

校長 五十嵐 俊子

先月は、保護者会にご参加くださりましてありがとうございます。私からは、あいさつと「ありがとう」の言葉で、笑顔のあふれる『まちご』にしたいというお話をさせていただき、学年主任からは、本校の学校経営方針の概要をプレゼンさせていただきました。新学期がスタートしてまもなく1か月になりますが、来校される保護者や地域のみなさまが、いつもすてきな笑顔であいさつしてくださり、子供たちからの主体的なあいさつも増えていることをとてもうれしく感じています。

今回は、優れた自己管理能力を無意識に発揮できるようになるという10個の条件を紹介します。これは、世界的な脳医学者である林成之氏が、自分の気持ちをコントロールできない子供たちが増えていることを危惧され、教育にもっと脳科学の成果を取り入れるように提案されたものです。

- ①先生を好きになる、何事にも興味をもつ
- ②「だいたいできた」の考えをやめる
- ③「まあ、いいか」の習慣もやめ、最後まできちんとした考えを大切にする
- ④途中で違うことを考えない、やりだしたらそれに集中する
- ⑤「無理」「できない」「勝てない」などの否定語を口にしない
- ⑥自分の欠点や弱点が言え、自分をうそでごまかさない
- ⑦何事にも「気持ち」を込め、感動できることを力にする
- ⑧素直に全力投球することを心がける
- ⑨「後で」をやめ、「今しよう」を基本に行動する
- ⑩何事も自分から進んでやる自分の「気持ち」を大切にする



気持ちを込めてくつをそろえます。

この10の習慣をつけると、鋭い直感的な思考能力もいつの間にか身に付くということです。

子供の脳の成長パターンはみんな同じではありませんから、常に100%を求めるのではなく、今はたとえ半分しかできなくても、あきらめずに繰り返し努力し続けることで、必ず最後は達成できるという大らかさも必要だと思います。子供に限らず何歳になっても素質は磨かれるということはいはうれしいことです。

文部科学省の中央教育審議会会長を務められた日本学術振興会理事長の安西祐一郎先生は、『生きる』ことを支えているのは、気持ちの通い合う人のつながり、いつも変わらず応援してくれる人たちの存在、安心して戻れる場所、一生振り返ることのできる温かい記憶だとおっしゃっています。

子供たちにとって、家庭はもちろん学校も、安心して挑戦できる温かい場所でありたいと思います。間違ったり失敗することを恐れない、がんばった過程を認めてもらえる経験を通して、誰かのためになりたい、何かをしてあげたいという気持ちを育てたいと思います。そして、これからの時代を生き抜く子供たちに、「主体的に生きる」「多様な人々と生きる」「協力して生きる」「感謝して生きる」「誇りにして生きる」、これらの生き方ができるような力を付けていきたいと考えています。

気持ちを込めること、前向きな気持ちをもって行動できるようにすること、そのための、温かな雰囲気の中でがんばれる「まちごの学びの環境」を、保護者、地域のみなさまとともに創っていきたいと思います。ご協力をどうぞよろしく願いいたします。